



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成28年9月12日(月)

Vol.335

## 地方創生に 地元大・中企業の役目は

秋元 秀夫

前回のFAX通信を読まれた方から久留里線はどうアクアラインへつなげるのですか?と聞かれました。私も実は想定の範疇でありましたので曖昧に書いた事が見事に突かれた思いでありました。

アクアライン効果は素晴らしく、濃溝の滝、房州の魅力に大きな成果を与えてくれております。その絶大な利便性を持つアクアラインがこのままですと大渋滞道路になる危惧があります。このまま傍観し、完全な渋滞道路となれば観光客は渋滞道路を嫌う特性がありますので敬遠される恐れがあります。その策として湾岸道路説がありますが2~3年前からアクアライン鉄道説もあります。つい最近の情報ですとアクアライン併設鉄道計画案が既に出来上がったと伝えられ、アクアラインに沿って鉄道専用ラインを作ると言う構想の様であります。具現化しても10年かかる事となりますが時代の速さは光陰矢のごとくであり、次代の地域の大きなテーマであり、先見性を持つ情報を求めて対応すべきであります。特に私見ですが、対岸川崎との交流を密接にして人脈を持つべきだと提案申し上げます。繰り返しになりますが少子高齢化問題であります。家族を定住させ、この地で夫婦親子が働き、子を育てていくことを切実に地元の政治、行政、市

民が望むならば他から人を集めることよりも市役所を始めとする各種団体、組合、新日鐵を始めとする大中小企業が社員、職員、パート等の採用は市内在住者を最優先して雇用すべきであり、工事物資等の調達もまた市内に本社を置く企業、業者を優先する産業振興条例を作るべきであります。

私の会社は県下に販路を持って居りますが君津市はあまりにもオープンであると感じます。親子三代が役所や地元企業に勤めれば、おのずから三代家族同居、安心して子を産み、子を育てられる環境が作られ、地元を大切にす郷土愛も大きくなります。地元だけでは人材が?との懸念説もありますが、企業、商店は経済を追うのみでなく、人を育てる役目も忘れてはならない事です。必要なら製鐵大学、建築建設専門学校を作ってくれるなら…この地の学校で学んだ子らは必ずその地で職を求めます。企業は生産性、利益を追求する使命がありますが如何に地域社会に貢献したかがその存在価値を問われる評価であります。地方創生が叫ばれる中で、グローバル化によって巨大な利益を享受する企業がある反面、疲弊消滅して行く小零細業界との格差、不平等の解決について是正、協力を求めた在職15年でありました。それは市場経済主義の企業、大型店優先のあり方を変え、高齢化地方社会では絶対必要な地方小企業、自営業が存続できる本来の地方社会の豊かさの大切さを政治、行政、大型店に関わる人達に気付いてもらいたかったからであります。

苦言を申すなら、今地方社会が少子高齢化、地方経済疲弊は政治、行政が大企業、大型店…税収を重視するあまり企業も社会貢献を軽視し、地方中小零細、自営業と共に発展する社会(まち)づくりを怠ったからであります。